

ねりまの文化財

文化財を火災から守り、後世に受け継ごう！

1月26日は文化財防火デー

昭和24年のこの日、世界最古の木造

建造物である法隆寺金堂で失火があり、
仏教壁画の最高傑作と言われた十二面
壁画の大半が焼失しました。その後も
文化財の焼損が相次いだことから、文
化財保護についての総合的法律として
昭和25年に文化財保護法を施行し、昭
和30年には文化庁と消防庁の主唱に
より「文化財防火デー」を制定して、
全国的に文化財防火運動を展開してい
ます。

現在、練馬区内には161件の登録文化
財がありますが、紙や木などの燃えや
すいものもあり、あわせて文化財の火
災原因の多くが放火や焚き火等からの
飛び火によることを考えれば、常に火
災の危険にさらされていると言えます。
長い歴史の中で先人が守ってきた貴重
な文化財が簡単に灰になってしまう恐

れがあるのです。

最近では、平成14年11月に岩手県大
迫町の民俗資料収集室が焼け、12月には
北海道で世界最古の漆の副葬品が焼損し
ています。また、昨年の新潟県中越地震
では多くの貴重な文化財が被害にあつた
ことは、記憶に新しいところです。

あらゆる災害から文化財を守り次代に
伝えていくことは、現代に生きる我々の
責務でもあります。なかでも人災的要素
が強い火災は、心掛け次第で防災効果が
大きく違ってきます。可燃物の除去や整
理整頓など、放火されない環境づくりも
その一つです。関係者による防災設備の
点検・整備はもちろんのこと、地域ぐる
みでの取り組みが必要です。

1月26日の文化財防火デーを中心に、
区内でも、文化財を保管している神社の
協力のもと、所轄三消防署や消防団によ

練馬区教育委員会
生涯学習課
(文化財係)
Tel 3993-1111
〒176-8501
練馬区豊玉北6-12-1

る消防演習が行なわれます。関係者の通

報から始まり初期消火、面体マスク・圧
縮ボンベ着用隊員による負傷者の救助や
搬送、そして文化財の搬出。この間、各
ホースの連結が行なわれ、いよいよ一斉
放水・・・。放水銃や可搬式ポンプある
いは消防車からの放水はさすがに迫力が
あります。これらの訓練が隊長の指揮・
命令のもと本番さながらに行なわれます。
是非お越しください。

○日時 1月26日(木) 午前10時

○場所 南蔵院(中村1・15・1)

土支田八幡宮(土支田4・28・1)

本立寺(関町北4・16・3)



本立寺

石神井西尋常小学校の リードオルガンの音を復活

平成16年、文化財に登録された「石
神井西尋常小学校のリードオルガン」
は昭和初期に製造され、小学校で唱歌
教育のため使われていましたが、現在
は音を出すことができません。今回楽
器としての命を復活させるべく、修理
復元することになりました。3月まで
オルガンの内部構造を調べながら、壊
れている部分を修理していく予定です。
昭和初期の足踏みオルガンはどんな音
色なのでしょう？早く聴いてみたい
ですね。リードオルガンの修復が完了
した後、ミニコンサートを予定してい
ます。3月11日号の区報でお知らせ
する予定です。どうぞお楽しみに。



平成18年は戌年

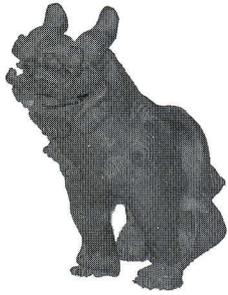
狛犬三講座

元旦のねりま区報でもご紹介しましたが、今年の干支に因んで、「狛犬」について解説します。

◇ 狛犬とは

神社の神殿前や参道に一对で置かれている「獅子」や「狐」をかたどった獣像です。本来は、空想上の獣であった獅子が日本に伝わり、像が変化して狛犬と呼ばれるようになったものです。あくまでも空想上の獣ですから犬を模したものではありません。厳密には角を持つものは「狛犬」で、角を持たないのは「獅子」ですが、今では両方とも「狛犬」の名称で定着しています。

狛犬は神前などで厄を除け、悪いものが聖域に入らないよう護る役割で置かれています。沖縄では民家の屋根や入口に「シーサー」という獅子に似た空想の獣像を置き、家を守らせるといふ風習があ



シーサー



り、その原型は狛犬と同じくエジプトやインド、中国の「獅子」と考えられています。狛犬は、朝鮮半島を「高麗(こま)」と呼んでいたことから、朝鮮半島から伝わった外来の犬という意味で「狛犬」と呼ばれるようになったとも言われています。

◇ 狛犬の顔の違いは

互いに向き合って並んでいる狛犬の顔は、口を開けて「ア」と発音したようなものと「ウン」と発音したように口を閉じているものが普通で、「阿吽(アウン)」の形で一对となっています。同じように寺院にある「仁王門」には、寺に入ろうとする者を左右で睨んで威嚇するように阿形像と吽形像の一对の仁王像が立っていることがあります。狛犬の原型となった中国の「獅子」には阿吽像は一般的で

はありません。日本に伝来してから、「阿」は「万物の根源」、「吽」は「一切が帰着する知徳」(広辞苑)という密教の影響を受け、始まりから終わりまでの一切を護る守護獣として、阿吽の相が一般的になったと考えられています。

◇ 狛犬のいろいろ

日本最古の石造の狛犬は奈良市東大寺南大門にあり、鎌倉時代に造られたものといわれています。狛犬が神社の参道な



八七)のもですが、江戸時代のもは6対で、大多数が明治以降に奉納されたものです。昭和初期までのものは、素朴なものから、巻き毛などの彫刻も深く、像の姿も荒々しいものなどバラエティーに富み、蹲踞(そんきよ)している姿や尾を高く上げているものなどがあります。戦後に造られたものは、全国的に画一していきます。また、子や毬(まり)を付属したものもあります。区内では「獅子型」と「狐型」がほぼ同数で、「狼型」が3対あります。

◇ 何が刻まれているか

区内にある狛犬のほとんどは、神社に奉納されたものです。中には狛犬の背に文字が刻まれている場合もありますが、台座部分に「奉納」や「奉獻(献)」の文字が読み取れます。さらに奉納者名が刻まれ、神社の氏子が協力して奉納したものには「氏子中」の文字や奉納に協力した個人名が刻まれています。「願主」は個人の場合には奉納者の住所地の地名や名前が刻まれている場合があります。「願主」は奉納者で、「世話人」とある場合はその代表者です。また、大多数には奉納した年号が刻まれています。制作した石工の名が刻まれている場合もあり、江戸時代のもものでは、「江戸浅草町 平次郎」、「牛込榎町 仁兵衛」、「四ツ谷塩町 二丁目 木橋吉兵衛」、「奥兵衛」など江戸の石工の名前が刻まれ、江戸の石屋に発注して造らせたことがわかります。

区民ボランティアが企画・運営した史跡散歩 ③ 「旧川越街道から下練馬村を歩く」

昨年度実施した史跡散歩事業、今回は区東北部を巡る。東武練馬駅南口を出てストアーの壁に沿って歩くと旧川越街道から早瀬道(徳丸道)が分かれており、そこには聖観音座像や仁王像など14基の石造物が安置されている。古くから地域の信仰を集めてきた北町観音堂①である。旧川越街道は中山道板橋宿から川越に至る道であった。その街道を少し下って南下すると阿弥陀堂②があり、江戸六上水の一つである千川上水を開削し、代々上水路取締役を勤めた千川家の墓がある。

田柄川緑道まで出て北町小学校まで行くとその角に、徳川綱吉御殿跡の碑③が建っている。川越街道に戻ると左には浅間神を祀る下練馬の富士塚④がある。実際に富士登拝出来ない人々の、常に山神を拝していたという願いが伝わって来るモニュメントである。なお、大きな社殿は境内社の天祖神社である。すぐ裏手が清性寺跡⑤。焼け残った不動明王像が痛々しい。

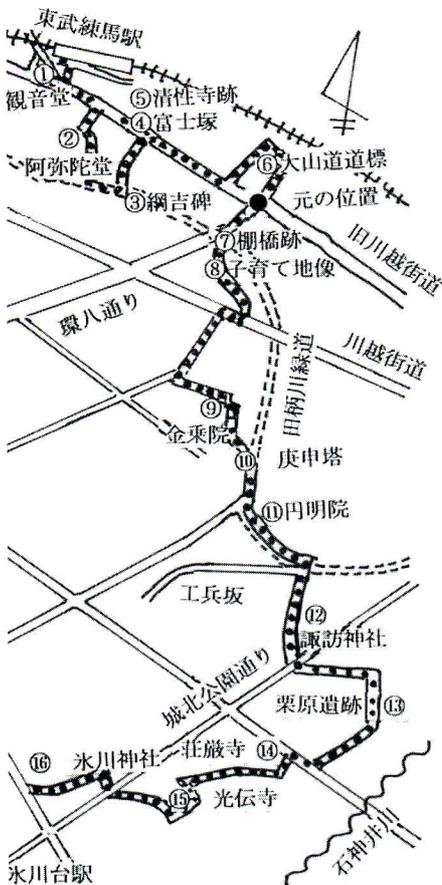
再び川越街道に出て北町商店街を歩いてみる。このあたりが江戸時代の下練馬宿の中心だったところである。今はその面影はないが、復元図にはかご屋・旅館といった名前が見られ、当手を思い浮

かべながら歩くのも悪くない。本陣跡に左に曲がり北町児童遊園に行くと、大道標⑥が環状八号線(大山道)工事のため仮設されている。旧川越街道との分岐点にあったものである。このような標を頼りに、遠く伊勢原まで大山詣でに旅立って行ったのである。

さて、旧川越街道を突っ切り大山道に入ると、かつて田柄川が流れていた。その旧橋(柵橋)の高欄親柱⑦が、今は暗渠になった緑道脇に残されている。次の角にある安楽子育て地蔵⑧から左に進み、川越街道を渡ると、金乗院⑨である。三代将軍家光をはじめ、代々の将軍から寺領を保証する御朱印状を賜っている。また、境内には舟形光背に六体の地蔵を浮き立たせた一石六地藏が、美しい姿を見せている。



金乗院御朱印状



下練馬道を通って緑道に入るその角には、東本村の庚申塔⑩が建つ。しばらく緑道を歩くと、左手の門前に多くの石造物が見えて来る。円明院⑪である。寺宝として文亀元年(一五〇一)の弁財天像線彫の板碑がある。すぐ前にはかつて田柄川が流れており、古くから弁財天信仰が厚かったものと考えられる。今神橋跡から道を南にとる。右手、東本村を経て重現に至る今神道はかつて、台地の裾を登る急坂路で崩落泥土に難渋していた。そこで大正15年、近衛師団の工兵隊が地元青年団と共に改良工事をし、その記念碑が諏訪神社⑫に建つ。

まもなく、城北中央公園の広大な緑が見えて来る。公園内には旧石器から平安時代までの複合遺跡(栗原遺跡⑬)が発見され、堅穴住居の上屋が復元されている。公園裏手の莊厳寺⑭に寄り、光明真言の念仏を一億回唱えれば、全ての願いが成就されるという読誦塔(どくじゆと)を見て、光伝寺⑮まで足を伸ばすと、

推定樹齢数百年という天然記念物のコウヤマキを見ることが出来る。この観音堂には、これから訪れる氷川神社に元あった観音像が安置されている。江戸末期の敬神廃仏思想は一八六八年の神仏分離令によって具体化し、この観音像も地中に埋められていたものである。傷ついた観音像を見ると歴史を垣間見る思いである。

公園通りを過ぎて左に台地を下ると、大氷川さまと親しまれている氷川神社⑯の杜である。区内唯一の角柱型水盤をはじめ、区内最古の狛犬など貴重な文化財が多い。また、春祭には三年に一度、神輿が当社発祥の地お浜井戸に渡御する。神行は御供道中歌を唄いながら進み、井戸に着くと、雌雄二羽に扮して鶴の舞が演じられる。今年はその例大祭に当たる。一度は見えておきたい郷土の祭りである。公園通りに出るとすぐ有楽町線の氷川台駅である。

郷土資料室特別展

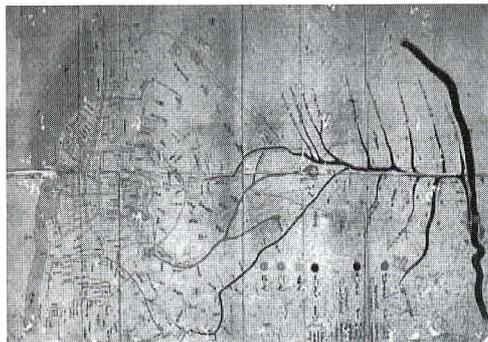
千川上水展く上水の流れと人々の暮らし

千川上水は、將軍徳川綱吉の元禄9年(一六九六)に、玉川上水から分水され、小石川(白山)御殿・湯島聖堂・上野寛永寺・浅草御殿への給水を目的として開鑿されました。本郷・湯島・外神田・下谷・浅草などの江戸の町へ配水され、宝永4年(一七〇四)以降、現練馬区域にあたる関村・上石神井村・下石神井村・中村・中新井村・下練馬村を含む20ヶ村で農業用水として利用されるようになりました。

千川上水は、水車が設けられ製粉・精穀の動力としても利用され、近代以降、抄紙会社(王子製紙)などの工業用水にも使用されました。また、沿岸に桜が植樹されると、上水堤は「新小金井」として、玉川上水の小金井の桜に対比される名所になりました。

このように流域の人々のくらしに大きく関わって来た千川上水も、都市化とともに暗渠化が進み、わずかに素掘りのまま残った部分でも、昭和46年(一九七二)に大蔵省印刷局王子工場が取水をやめると水の流れが見られなくなってしまうました。しかし、近年、水辺環境は見直されつつあり、平成元年(一九八九)に清流復活事業が実施されました。

今回の展示では、千川上水が人々の



江戸水道配水図 (郷土資料室所蔵千川家文書)

くらしとどのように関わってきたか、さまざまな資料から紹介します。ぜひ、お越しください。

○会場 郷土資料室(石神井台1・16・31 電話3996・0563)

○日時 3月18日(土)〜5月14日(日) 午前9時〜午後5時

※月曜日、第4金曜日、5月4日(木)は休室。

○学芸員による展示解説

①3月19日(日) ②5月7日(日)

※①②ともに午後12時50分から約30分、直接会場においでください。

○講演会 大石学氏(東京学芸大学教授) 「千川上水と武蔵野・江戸(仮題)」

※詳しくは、ねりま区報3月11日号をご覧ください。

今年「神輿渡御行列」が催されます

今年4月9日(日)に、氷川神社(氷川台4・47)で、三年に一度の「神輿渡御行列(みこしとぎよぎょうれつ)」が催されます。神輿を先頭に太鼓などを持ち、約百名の氏子の方々が氷川神社から行列を組み、神社発祥の地とされる「お浜井戸」(桜台6・32)まで歩きます。神輿が発祥の地へ遷ることから「お里帰り」とも称しています。

途中、石神井川沿いでは、区登録無形民俗文化財の「神輿渡御の御供道中歌」が歌われます。扇子を口にあて、「さかきばんや まつかやなみの 追風さほい風やよがりよそんよ・・・」ではじまる歌は、『体源抄』という書物に記録されている中世の風俗歌と詞章が似ており、古くから歌い継がれてきたと考えられています。

お浜井戸に行列が到着し、祝詞の後、「鶴子舞」と「鶴の舞」が奉納されます。「鶴の舞」は全国的にも珍しいもので、練馬区の無形民俗文化財として指定されています。紋付羽織姿の氏子二人が、竹の骨組みに小さく切った白い紙を貼り付けた鶴の冠を被り、雌雄一対の鶴に扮して太鼓に合わせて踊ります。羽織を広げればたく姿、一瞬の雌雄の触れ合いなど、素朴な舞です。五穀豊穰、子孫繁栄などを願う民俗行事です。

行列は、午後1時過ぎに神社を出発する予定です。約30分かけてお浜井戸まで行き、「鶴の舞」などの後、復路も行列で戻ります。



鶴の舞

郷土資料室の移転期間 変更のお知らせ

前号でお知らせしました、一時移転期間が左記のとおり変更になりましたので再度お知らせします。なお、業務内容についてはお問い合わせください。

▽移転期間 1月5日(木)〜

2月19日(日)

▽移転先 郷土資料仮設収蔵庫

(石神井町5・12・7)

▽問合せ 郷土資料室

電話3996・0563

*2月21日(火)〜28日(火)までは元に戻る準備のため休室します。